



1年を通して、ライフラインをテーマに長野市の風景を描いていく

輝くあの人にインタビュー

人きらっとひかる

画家・イラストレーター

やまもと かおり
山本 薫さん



人の営みを支えるライフラインを 繊細なペン画で温かく表現

今年1月から1年間、本誌の表紙を飾るイラストは、長野市の風景を繊細な水彩画とペン画で描く山本薫さんです。シリーズを通して描くのは、「ライフライン」。市民の暮らしや安全を守る長野市役所や令和元年の台風19号災害の復興工事現場をモチーフに、全く新しい切り口で長野市の風景を描きます。

才能ある若手を支援する 芸術家発掘コンテスト

当会議所では、芸術家の育成支援を通じて長野の文化向上に寄与すると同時に、長野のブランドイメージを発信し、観光振興につなげていく取り組みとして、毎年「芸術家発掘コンテスト」を実施しています。

応募者の中からグランプリに選ばれると、賞金20万円の贈呈のほか、1年間(12回)にわたり本誌の表紙として作品を掲載できます。第16回目を迎えた今年、グランプリに輝いたのは長野市で文化芸術活動が続ける山本薫さんです。長野県と一般財団法人長野県文化振興事業団が運営する「芸術家支援事業next(+)」の登録メンバーでもあり、雑誌の表紙イラスト等を手がけたほか、都内や県内ギャラリーで個展の開催経験もあるアーティストです。山本さんは出身地の上田市内で活動していましたが、40歳を機に人生のリスタートを決意。長野市へ転居し、現在はいくつかの仕事を掛け持ちしながら第二の人生を切り拓いています。

「芸術家発掘コンテストのことは、長野市

うのです」。

手に持ったシカ書のカボチャは、かじられたリングがロゴマークになった有名な会社のオマージュ。一見すると別の意味を持つものが、捉え方次第ではまた違った意味と力を持つ転換点となることを作り手として大切に、そしてそれがどこかで人と人が何かを進ませられる力になればという思いが込められています。「同じ風景でも、思いがけない切り口で長野市を描いていきたいと考えていますので、12カ月を通して楽しんでいただき、「風景」という表のテーマだけでない、隠れた何かが長野市で生きる方の活力になれるような作品群にしたいです」。



1月8日(水)、当会議所議員新年祝賀会で表彰式が行われた

PROFILE

上田市出身。高校卒業後、茨城大学教育学部総合教育課程美術文化コースに3年次まで在籍。その後、松本歯科大学で金属加工と歯科医療について学ぶ。2002年頃から画家・イラストレーターとして全国規模のコンペティションに参加。長野県文化芸術振興計画の表紙デザイン、長野銀行カレンダー、食品関連雑誌の表紙等のイラスト・デザインを多く手がける。県若手芸術家支援事業next(+)の登録メンバー。

時に、その思いを象徴するような川沿いの風景と出会いました。

「夕暮れ時でした。小高い丘から千曲川を見下ろしていると、人家に次々と灯りがともって、人の営みの原点がここにあると思っただけです」。その時の思いをカタチにして残したいと、1年を通して「ライフライン」をモチーフに展開してみようと考えました。

1月の作品は、長野市役所のベランダから見た夜明け(日の出)をイメージして描きました。平常時も災害時も市民生活を守る、公務という役割を表現。記録を想起させる鳩の羽は、一人ひとりと行政の仕組みの有機的な交換を願うもので、実際の羽を画面に取り込みグラフィック化しました。人の営みや安全を支える市役所のイラストを通して、平和や繁栄への祈りも込められています。

虹のアーチ、復興のゴール

2月のモチーフは、屋島にある「千曲川リバーフロントスポーツガーデン」のサッカー練習場で、台風19号災害の復興工事現場を描いた作品です。山本さんは実際に復興工事中に足を運んだ際に、奥に見える屋島橋が虹のように見えたといいます。その虹が希望の風景と重なるように、タイトルには「虹のアーチ、復興のゴール」と名付けました。「災害時に芸術が何の力になれるのかと悩んだこともありましたが、絵を見ることで何かのヒントになったり、勇気をもたらえたりと、心が動かされるいろいろな体験ができると思

に来て初めて知りました。受賞の知らせにはとても驚きましたが、思いがけないご縁に感謝すると同時に、今後の自分自身の役割について思いを新たにしています。人の行動の原動力の一つに寄与できる文化芸術の仕事に、優れた先人の沢山おられること、長野市で、より深く培っていかれたらと思います」と、山本さんは語ります。

3歳の時に出会った 絵の世界

3歳の時に病気で小児病棟に入院した時、周りの方が紙とペンを与えてくれて、思いのままに描き始めたのが絵の世界への入口でした。医療、食物、動植物や光、人がくれる気持ちやものごと、人の営みに必要なことは何かを、芸術を生業とするなら暗に流れる自分のテーマにしたいと考え、その思いがいつの間にか年々連なるようになっていきました。ちょうど転機として長野市に来た